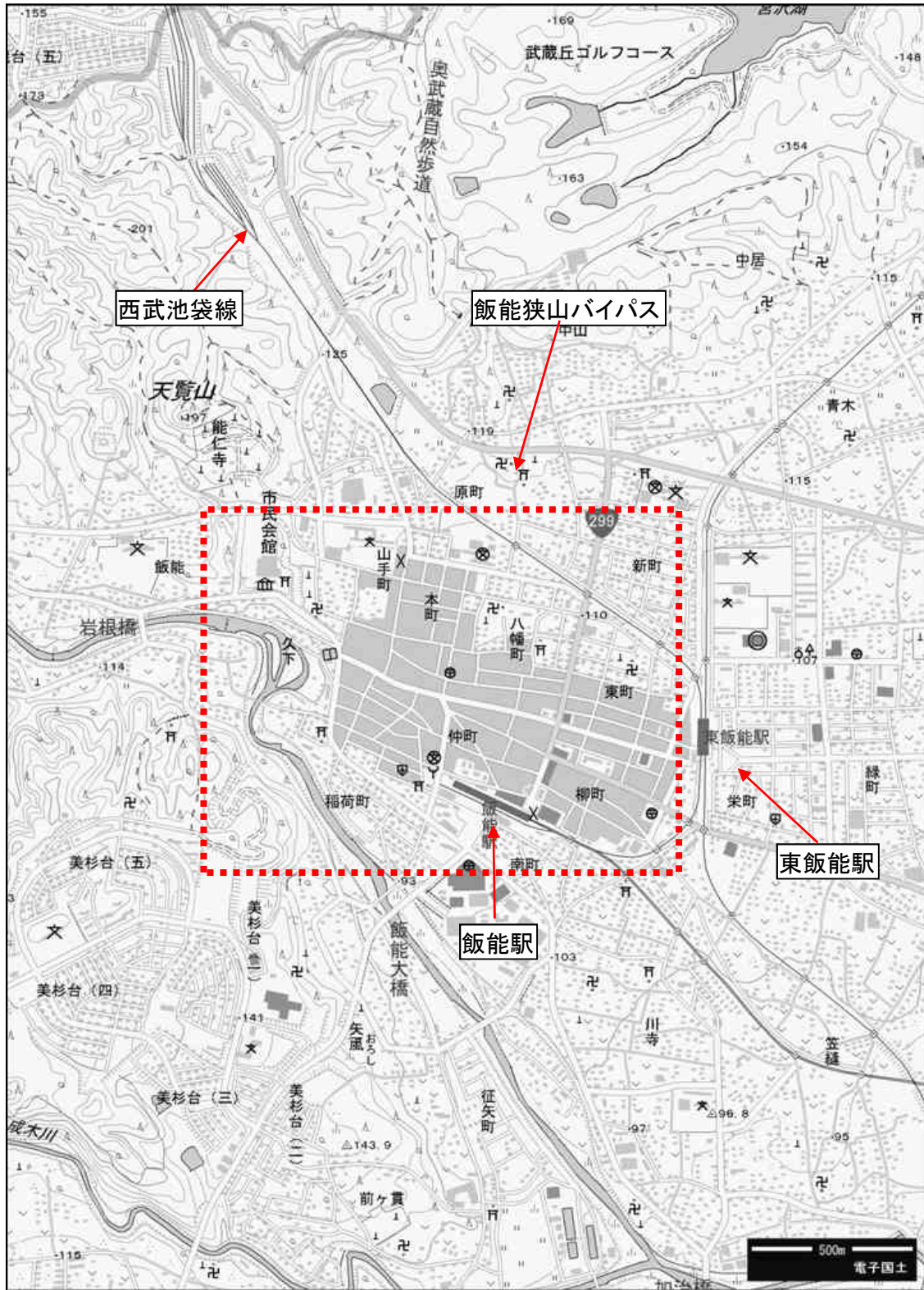


飯能



飯能1



凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他

飯能2



凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他

飯能



埼玉県南西部、都心から約50kmに位置し、奥武蔵の豊かな自然に恵まれている。古くから、森林と人との永年の共生によって人々の暮らしや文化、歴史、産業が育まれてきた。歴史的背景・地域特性である森林文化を継承し、自然と都市機能が調和するまちの創造を目指している。

(写真は中央公民館から見た天覧山)

1

病院



大正時代の医院建築。

2

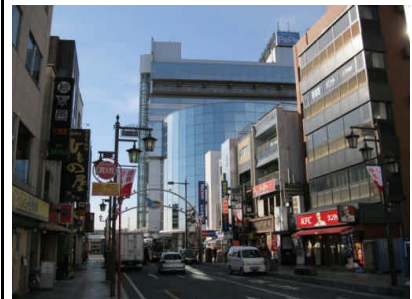
住宅



大正時代に原市場より移築したもの。南側には、冠木門があり、大谷石の蔵、井戸屋型、広い庭のある民家。建物自体は、明治初期～明治中期のもの。

3

駅前通り



様々な店舗で賑わっている飯能の駅前商店街。正面に見える大きなビルは、飯能プリンスホテル。

4

住宅



昔、飯能駅から西に向かって材木屋が並んでいた中の一軒。店の角柱に二方差し鴨居のある材木店。昭和初期の町屋。

5

住宅



木でできている出窓の格子が特徴的。昭和初期の材木店。

6

久下稲荷



市内にある東西南北を向いた稲荷神社の中の、北向きの稲荷神社。明治中期頃、地元の住民から寄進されたと言われている。

7	住宅	9	店舗
			
<p>昭和初期の材木屋。 門構えが素敵な出桁造りの近代和風の家。</p>	<p>石のように見えるモルタル塗りの看板建築。大正初期の建物。</p>	<p>江戸末期～明治初期時代の杉皮葺きの上に、トタン屋根を被せた町屋。</p>	
10	店舗	11	織物協同組合
			
<p>建物は明治時代のもの。 表部分は大正期に増築された。 壁はモルタル塗りで目地を入れ、石積みのような見た目に仕上げている。</p>	<p>大正11年築の和洋折衷建築。 屋根は和瓦寄せ棟葺き鬼瓦の代わりに鯨を載せている。 上げ下げ窓に、下見板張りの外壁。</p>	<p>大正初期の医院建築。 水色に塗られた、下見板張りが特徴的。</p>	
	14	15	病院
			
	<p>大正前期の近代和風の町屋。 庭に面した差し鴨居は、長さは約7m。 写真左側に見えるのは、桜の木で、春には桜吹雪が舞い、賑やかな雰囲気を醸し出している。</p>	<p>大正時代の医院建築。 下見板張りで上下窓枠が太く、この時代の典型的な洋風デザイン。</p>	

16	店舗	17	店舗	18	住宅
			<p>大正時代の町屋造りのうどん屋さん。見世と通り土間がある典型的な町屋。</p>	<p>明治時代の蔵をそば屋に改修して使用している。</p>	<p>元・木材商。現在は古美術品店。典型的な、大正期の出桁造りの民家。飯能市内に残る材木商の町屋の一つで、一方向指し鴨居に、二重垂木の下屋。</p>
19	路地	20	路地	21	店舗
			<p>八幡町の緑あふれる路地。</p>	<p>人通りの少ない、静かで蔵のある路地。板塀に蔵が続く。</p>	<p>元は米屋の脇蔵をスタジオとして改修。現在は飲食店に一階を改修。</p>
22	住宅	23	店舗	24	店舗
			<p>大正時代、織物問屋の迎賓館として使われていた民家。 表は、店蔵を改修した「銀河堂」として活用されている。</p>	<p>袖蔵は江戸時代の蔵で、柱には一揆の傷跡が残っている。 店蔵は明治時代のもの。</p>	<p>店蔵。中蔵、奥蔵、中庭、住居と奥行きが長く、裏の通りまで抜けている典型的な日本の町割りが残る。 現在はカフェとして使用されている。</p>

25	店舗	26	絹甚	27	店舗
					
<p>火事の為、平成に再建された店蔵。 呉服屋。</p>		<p>明治三十七年に建てられた建物。 袖卯立つのある店蔵。 小屋組みは妻側は和小屋で、中がトラス 風で洋小屋を真似た特殊な造り。</p>		<p>明治二十年代の店蔵。 中蔵、奥蔵も残っている。 前の看板を取れば、「絹甚」に負けない 姿が現れる。</p>	
28	店舗	29	路地	30	路地
					
<p>大正時代の建売住宅で典型的な町屋の スタイル。出桁造りで硝子戸のガラスも 当時のまま、残っている。</p>		<p>明治・大正の蔵の並ぶ路地。</p>		<p>昭和初期の木塀がある路地。</p>	
		32	旧平岡レース事務所	33	諏訪沢
					
		<p>昭和25～27年に造られた、遠藤新設計 の事務所建築。 事務所棟は、かぶら束、八方から登梁り が集まる特殊な小屋組。</p>		<p>道下を覗き込むと、沢が流れる市街地 中の森の小道。 武蔵野の山野草が多く生息している。</p>	

34	天覧山	35	諏訪神社	36	名栗街道
			<p>明治初期、彰義隊が逃げてきた最後の戦地でもある。飯能の象徴の低い山。その戦の結果を明治天皇が見たところから、天覧山と名づけられた。</p>	<p>飯能の氏神様。街の中での社が、数十体集まってきている。飯能の旧市街地を護ってくれている。</p>	<p>緑のトンネルと呼ばれる飯能の名栗街道。夏には、写真右側に見える木が青々と生茂り、木漏れ日があふれる空間に。生茂る緑と、観音寺の石垣のコラボが良い。</p>
37	飯能河原	38	住宅	39-A	店舗
			<p>緑と清流の町、飯能を最も感じられる河原。調査時点では工事中。写真は、図書館駐輪場から見たもの。</p>	<p>かつて、糸買継ぎ商であった店蔵。脇道を広げた為に、蔵の左側を切り取って改修し、民家として住み続けている。揚戸が現存している。</p>	<p>明治時代の町屋のうなぎ屋。前面の店舗部分が明治時代。裏の木造3階建て部分が、大正時代。その頃の社交場として機能していた座敷が残っている。</p>
39-B	店舗	40	店舗	41	蔵
			<p>座敷三階は大正時代に造られたもの。</p>	<p>昭和27年築の華街の名残がある、粋な割烹の建物。この界隈は、埼玉西部地区の数少ない、花街の名残がある。</p>	<p>手前の脇蔵を住まい兼教室として使用。写真奥の町屋は、明治時代の建物。</p>

	43 住宅	44 飯能河原
		
	<p>昭和初期の出桁造りの町屋。</p>	<p>こちらは、図書館屋上から見た景色。天覧山を背に眺めることができる。春・夏にはボート場や、バーベキュー場も営業しており、川遊びに絶好の憩いの場である。</p>
45-A 飯能河原	45-B 飯能河原	46 稲荷神社
		
<p>昭和30年代後半(東京オリンピック開催時)頃には、スケート場として使われていた。</p>	<p>河原にかかる赤い割岩橋の下流両岸は、「さいたま緑のトラスト保全 第4号地 飯能河原周辺河岸緑地」に指定されている。</p>	<p>市内にある東西南北を向いた、稲荷神社の中の、東向きの稲荷神社。「秋葉神社」と「三座宮稲荷神社」が同じ敷地内にある。</p>